

インマヌエル中目黒キリスト教会

2012年12月9日 聖日礼拝

クリスマス講壇 (2)

「クリスマス～これからは恵みで」

マタイの福音書

2章1-6、16-23節

河村 従彦 牧師



聖書朗読

新約聖書

マタイの福音書 2章1-6、16-23節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp2~/ 第三版の聖書はp2~

- 1 イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。
- 2 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」
- 3 それを聞いて、ヘロデ王は恐れ惑った。エルサレム中の人も王と同様であった。

- 4 そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。
- 5 彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです。
- 6 『ユダの地、ベツレヘム。あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。わたしの民イスラエルを治める支配者が、あなたから出るのだから。』」

- 16 その後、ヘロデは、博士たちにだまされたことがわかると、非常におこって、人をやって、ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男の子をひとり残らず殺させた。その年齢は博士たちから突き止めておいた時間から割り出したのである。
- 17 そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。

- 18 「ラマで声ができる。泣き、そして嘆き叫ぶ声。ラケルがその子らのために泣いている。ラケルは慰められることを拒んだ。子らがもういないからだ。」
- 19 ヘロデが死ぬと、見よ、主の使いが、夢でエジプトにいるヨセフに現れて、言った。
- 20 「立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に行きなさい。幼子のいのちを付けねらっていた人たちは死にました。」

- 21 そこで、彼は立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に入った。
- 22 しかし、アケラオが父ヘロデに代わってユダヤを治めていると聞いたので、そこに行くとどまることを恐れた。そして、夢で戒めを受けたので、ガリラヤ地方に立ちのいた。
- 23 そして、ナザレという町に行って住んだ。これは預言者たちを通して「この方はナザレ人と呼ばれる」と言われた事が成就するためであった。

説教

クリスマス講壇 (2)

「クリスマス～これからは恵みで」

マタイの福音書

2章1-6、16-23節

河村 従彦 牧師



I 登場人物たち

A 東の博士たち

1 人となり

2 特徴

星の出現からメシヤの誕生を
察知した感性豊かな人たち

状況がよく見えないままに

尋ねまわった人たち

豊かな恵みにあずかった人たち

→★脇役

B ヘロデ

1 人となり

2 マタイの意図

～歴史の証人として登場させた

→★重要人物

C 祭司長や学者たち

1 さすが律法の専門家

2 マタイの意図

～祭司長・学者たちに発言させた

→★最重要人物

II マタイの伝えたかったメッセージ

A ユダヤ人への意識

1 なぜ？ マタイが読者としてユダヤ人を意識していた

2 二つの事実を記録

→キリストこそ救い主であることをわかってほしかった

B マタイの重荷 ～これからは恵みで

1 恵みの視点

2 たとえば山上の説教

- (1) 律法は文言を守ればよいのではなく内容が問題
- (2) 形は重要ではないといって、水準が下がったのではない
- (3) 神さまの恵みは完璧である

その後の動き

1 博士たち

—自分の国に帰っていった

2 ヨセフ —エジプトへ避難

3 滞在 —ヘロデの死ぬまで

4 ヘロデの怒りと虐殺

III エレミヤ書31章のメッセージ

A 嘆きにマタイが重なるイメージ

→エレミヤ31:15

全イスラエルの回復 エレミヤ31:1～40

- 1 北イスラエルの回復 1～6節
- 2 回復の喜び 7～14節
- 3 ラケルの悲しみの終り 15～22節
- 4 ユダの回復 23～26節
- 5 両者の回復 27～40節

B 嘆きの次の節 エレミヤ31:16～17

C 神さまによる慰めのメッセージ

→恵みに生きることができる世界の
イメージ

1 永遠の愛 エレミヤ31:3

2 新しい関係 エレミヤ31:33

律法が心に書き記される

罪の赦し

結 これからは恵みで